

出版物紹介

井上順孝（編集委員長）『世界宗教百科事典』

（丸善出版、2012年12月）

内容紹介

世界の宗教現象、宗教文化といったものを理解していくための基本的知識と現代の宗教研究の成果をなるべく分かりやすく提供するために刊行された事典。大きく二部構成になっている。第一部宗教編では、宗教ごとの展開を捉える視点から、古代宗教、ユダヤ教、仏教、キリスト教、イスラームに関する項目がある。第二部宗教文化圏編では、地域ごとの状況を把握しようとする視点から、中国宗教文化圏、日本の宗教、韓国の宗教、仏教・ヒンドゥー教文化圏、キリスト教文化圏、イスラーム文化圏、アフリカ宗教文化圏、中南米・オセアニア宗教文化圏、そして現代の宗教・スピリチュアリティに関する項目がある。



井上順孝編集責任『第11回学生宗教意識調査報告』

（科学研究費補助金 基盤研究（B）「宗教文化教育の教材に関する総合研究」、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」、2013年1月）

内容紹介

本研究所プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」のメンバーならびに「宗教と社会」学会の「宗教意識調査プロジェクト」メンバーが中心となって実施された質問紙調査の報告書。1995年以来11回目となる本調査は、2012年4月～6月に行われ、全国30大学の学生4,094人の有効回答を得た。「信仰を持っている」との回答は、前回に続き増加傾向が見られた。また、2011年3月の東日本大震災を受け、災害時の宗教・宗教家の役割や、震災による意識の変化などの問いが新設された。イスラームへの関心や関わりなどを問う設問は、2005年度の第8回調査以来、2回目となっている。現代日本の大学生・若者の宗教意識を知るための重要なデータを提供していると言えるだろう。

第11回学生宗教意識調査報告	
2013年1月	
目次	
はじめに	1
【1】調査者の概要	1
【2】調査の目的と調査方法について	2
1. 調査の目的	2
2. 調査の方法	2
3. 調査の範囲	2
4. 調査の時期	2
5. 調査の場所	2
6. 調査の対象	2
7. 調査の結果	2
【3】調査の結果について	3
1. 調査の結果	3
2. 調査の結果	3
3. 調査の結果	3
4. 調査の結果	3
5. 調査の結果	3
6. 調査の結果	3
7. 調査の結果	3
8. 調査の結果	3
9. 調査の結果	3
10. 調査の結果	3
11. 調査の結果	3
12. 調査の結果	3
13. 調査の結果	3
14. 調査の結果	3
15. 調査の結果	3
16. 調査の結果	3
17. 調査の結果	3
18. 調査の結果	3
19. 調査の結果	3
20. 調査の結果	3
21. 調査の結果	3
22. 調査の結果	3
23. 調査の結果	3
24. 調査の結果	3
25. 調査の結果	3
26. 調査の結果	3
27. 調査の結果	3
28. 調査の結果	3
29. 調査の結果	3
30. 調査の結果	3

松村一男・平藤喜久子・山田仁史編『神の文化史事典』

(白水社、2013年2月)

内容紹介

世界の900余りの神々の名前や属性、能力をまとめた事典。

各項目では、神の名前の由来、属性と能力にかかわる概要をまとめ、詳細な出典を記している。すべての項目に「英雄」や「美男」、「戦士」、「王」といったキーワードを付し、巻末にキーワード索引を掲載する。これにより世界中の神話を横断的に研究することが可能となる。巻末には、キーワード索引、地域別出典一覧、参考文献一覧が付く。全650頁。

編者に本研究所の平藤喜久子が加わり、共同研究員の今井信治、小堀馨子も項目を執筆している。



高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著

『宗教と社会のフロンティア—宗教社会学からみる現代日本—』

(勁草書房、2012年8月)

内容紹介

現代日本の「宗教」に関わるトピックを幅広く取り上げた論集であり、大学生向けの「宗教社会学」や「現代宗教論」といった授業の教科書を想定して編まれたものである。全体は、13の章と3つのコラムから構成され、若手の宗教学・宗教社会学者14人が分担して執筆している。神道・仏教・キリスト教などの宗教伝統ごとや、宗教社会学の学説史・理論ごとではなく、カルト問題・スピリチュアル・社会参加・聖地巡礼ツーリズム・民俗・墓と葬送・生命倫理とスピリチュアルケア・政治と宗教・宗教教育・グローバル化と宗教などといったテーマごとに論じている点が最大の特徴であり、現代日本社会のさまざまな領域に「宗教」が関わっていることを理解できる内容となっている。



山中弘編『宗教とツーリズム—聖なるものの変容と持続—』

(世界思想社、2012年7月)

内容紹介

近年の世界的な巡礼ブーム、世界遺産ブームを反映して宗教施設をめぐるツーリズムが盛んになっている。本書では、これまで宗教研究の側からクローズアップされていなかった宗教（聖地）とツーリズムとの関わりを宗教学的視点から論じた著書で、第1部「聖地とツーリズム」、第2部「巡礼とツーリズム」、第3部「世界遺産とツーリズム」の3部構成となっている。

本研究所スタッフでは、山中弘を編者として、加藤久子が「負の文化遺産のツーリズム—＜アウシュヴィッツ＞への旅」、今井信治が「ファンが日常を「聖化」する—絵馬に懸けられた願い—」を執筆している。全279頁。



山中弘・星野英紀・岡本亮輔編『聖地巡礼ツーリズム』

(弘文堂、2012年11月)

内容紹介

宗教的行為「聖地巡礼」を「観光」という補助線で読み解きアニメの聖地から世界宗教の聖地、さらには負の聖地アウシュヴィッツなどの国内外52の聖地をとりあげ、それぞれの聖地の歴史と時代の流れによる変遷を分析・解説したもの。

本研究所スタッフでは、星野英紀、山中弘らを編者として加藤久子が「アウシュヴィッツ—それは誰の歴史か」、天田顕徳が「熊野 霊場と観光地のはざまに揺れ動く聖地」、村上晶が「富士山—「信仰の山」への回帰—」、今井信治が「鷲宮神社」を執筆している。全272頁。

